京都府市町村教育委員会連合会会長賞

「言葉にこめる思い」

亀岡市立東輝中学校　2年
村　山　浬　子

言葉には、どんな力があるか考えたことがありますか。私は、言葉にはたくさんの力があると思います。人を幸せにする力、人を素直にする力、人と人をつなぐ力などたくさんの良い力があると思います。その一方で危険な力、人を不幸にする力もあると思います。その言葉にこめる思いや、その言葉の発しかたによってもその言葉がもつ力を大きく変えてしまいます。

一学期、国語の授業で「言葉の力」というエッセイを読みました。それは「言葉には、それを発している人間全体が反映されてしまう」という内容でした。この授業をきっかけに私は、自分の生活の中で言葉が私にどんな影響を与えているのかを考えてみました。最初に頭に浮かんだのは、応援の力でした。私は陸上部で長距離走を専門に練習しています。長距離走は好きでやっていますが心や体が辛くなることはたくさんあります。そんなとき、私に「もっとがんばれる、まだいける」と力をくれるのは、家族や先生やいつも一緒にがんばっている仲間の応援の力です。例えば大会で千五百メートルのレースを走っている時に応援の力を感じました。ラスト一周の合図の鐘の音が聞こえた時、「もうこれ以上スピードを上げられない、止まりたい、転んでしまいたい」と思うほど辛くなります。そんなときにたくさんの応援の声が聞こえます。「ラストファイトー」「まだいける」「ここから上げて」などたくさんの声が聞こえます。きつすぎて誰が言ってくれているのかわからないときもありますが、声が聞こえると、さっきまで力なんてほとんど残っていなかったのにどんどん前に進んでいくことができるようになります。それは、応援してくれた人が言葉にこめた思いが私に伝わっているからなのだと思いました。

次に頭に浮かんできたのは、学校生活の中で聞こえてくる何気ない会話についてです。休み時間の教室などでキモイ、あほ、バカ、デブなどの言葉が聞こえてくるときがあります。みんなが楽しく笑うような話の中にその言葉が入っていると私は心の底から笑えないし、何かが引っかかります。たとえ、その言葉を言われた本人が笑っていたとしても、何か違和感を感じます。その人は笑っているけれど、本当は嫌かもしれません。むやみに人を傷つける言葉を使わなくてもみんな楽しく過ごすことができるのにと思ってしまいます。でも、少し違う場合もあります。それは、私がテレビを見ていた時のことです。その番組では、お笑い芸人の方が「あほちゃう」と大きな声でもう一人のお笑い芸人の方に言い放っていました。私は、テレビを見ながら思わず笑っていました。楽しい気持ちになりました。これは先ほど私が思っていたことと矛盾しています。言っている言葉は同じはずなのにどうしてこんなに違う思いになるのだろうと私は考えました。その答えは簡単でした。それは、こめている思いが違ったからです。芸人さんは、その言葉にテレビの前の人がどうやったら笑えるかな、どうしたら楽しくなれるかなと考え、たくさんの思いをこめているんだと思います。その違いこそ言葉が、それを発している人間全体を背負うということではないでしょうか。そして私が引っかかりを感じた理由は、乱暴な言葉を使っているからだけではなく、思いもなくその言葉を口にしていたからだと気付きました。

このことから、人を傷付ける言葉も、場合やこめる人の思いによって、人を幸せにする言葉に変えられるのだと思いました。人を幸せにする言葉も気持ちのこめ方によって相手への伝わり方が変わってくると思います。どんな言葉を使うときでも、相手のことをしっかりと考えることが大切だと思います。思いをこめることをみんなが意識したら、今よりもっと幸せがあふれるようになると思います。みなさんも普段使っている言葉に目を向けてみてください。言葉だけが一人歩きするのではなく、言葉の奥にある思いを発する側も受け取る側も大切にできる社会にしいていきませんか。